

# 七転び八起き

夏休みの終盤、肉体的にも精神的にも辛い中、立多摩中学校、立由井中学校との試合を行いました。内容は過去最悪といっても過言ではないほど散々な内容の試合でした。フライを捕球できない上に三点で追えない、バッテリエラー、投手陣の四死球、打てない、声掛けができない、サインミス、消極的なプレー等、反省点が多々ありました。ビデオを見ながらすぐにミーティングを行いました。やはり最大の問題点は声が出ないことだったので【声出しの定義】についてチームで共通理解を図りました。

た。今後はこの決まりに沿って声を出すようにしてください。この確認がすぐに七国中学校との練習試合で生きました。負けはしましたが攻撃時の雰囲気も良く、安定のYが右中間への特大のヒットを放ち、調子を上げてきたYもセンター方向へヒットを打ちました。また、トリックプレー、一塁三塁での連携、外野手の動き等、チームとして動くことができました。投手陣も良く踏ん張りました。Hのフォームにも改善が見られました。また新しいフォームにしてほぼ初登板のTは力のあるボールを投げて

# あっぱれ

第13号

編集・発行 顧問 中村 悠太

いました。抑えのーも打ち取るピッチングを心掛けしっかりと投げ切ることができました。練習した牽制もT、Fが良く動きセカンドでアウトにすることもできました。

引き続き自宅練習メニューをこなし投球技術の向上に努めてください。今後の課題としてはスクイズやサインプレーの確実な成功、守備攻撃共にボールの位置の把握、流れを把握しその状況に応じた声を出せるか（点を取れそうなるか）点を取れそうなる場面（チャンス、点を取った後の守備）になります。意識をしましょう。

一心同体（全員野球）

## 相手に合わせる

野球部に限らず、最近の中学生を見ていると「相手に合わせる」ことのできる人が多い傾向にあります。きっと人の気持ちを察することができ思いやりのある人なのでしょう。しかし、勝負事に関わらず、大事な場面でそれだけではうまくいくとは限りません。大切なことは自分の感情や本当の気持ちを全面に出すことです。エラーしたあと周りを見たり、ランダウンプレーで相手が止まったら自分も止まってみたり、連打が続き、相手ベンチが静かになり、グラウンドが静かになったら自分たちも静かになったりとその場の雰囲気や状況に流され同調してしまうことを良く見かけます。それはクラスでも野球部でもです。まだまだ中学生。子供と大人の境で様々な感情を抱くでしょう。自己防衛が働き、相手に合わせ意見に賛同し、相手を満足させる方が簡単ですし、楽です。しかし、それでは**“自分”**というものが形成されません。ヒットを打ったら注意されるぐらいベンチで大騒ぎしたり、エラーをしたら大声で泣いてみたり、自分の気持ちに自信が無くてもそれを目一杯表現してみよう。もっと素直に大胆に。**“自分”**を大切に

審判講習会で学んだこと（確認事項は直接伝えます）

## 審判は公平でみんなの味方